

## パイプサイレンサー施工上の注意

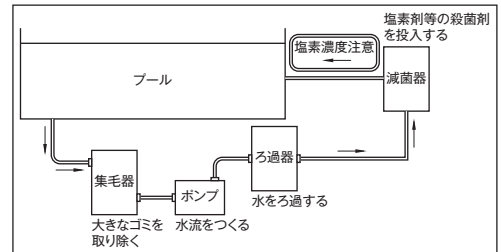
### ご使用前の確認事項

- ① ご注文いただいた製品に間違いがないことを、異径フランジの浮出し刻印による品番表示で確認し、付属品が全てそろっているか確認してください。
- ② パイプサイレンサー本体、異径フランジ部に傷等がないことを確認してください。
- ③ パイプサイレンサー本体に、油、溶剤、酸、アルカリが付着しないようにしてください。
- ④ 雰囲気温度40℃以下で使用してください。
- ⑤ 現場の最高使用圧力・最高使用温度が各製品の使用範囲内であることを確認の上ご使用ください。使用範囲外での使用は製品の寿命を著しく短くし、流体の漏れなど不具合の原因となります。
- ⑥ 各製品の許容変位量は単独変位の最大値を示します。従って変位が複合する場合は次の式で補正してください。

$$\frac{\text{伸び量}}{\text{許容伸び量}} + \frac{\text{偏心量}}{\text{許容偏心量}} + \frac{\text{偏角量}}{\text{許容偏角量}} \leq 1$$

- ⑦ 製品は、締切運転などの誤動作によって破損する恐れがありますので運転時は必ずバルブの開閉をご確認ください。
- ⑧ 流体を急激に流すようなバルブ操作はしないように十分ご注意ください。
- ⑨ 製品の管内流速は3m/s以下での使用をお勧めします。
- ⑩ 配管ラインの耐圧試験をエアで行う場合には、継手を外してから行ってください。
- ⑪ 製品の使用範囲・許容変位量などについては、当社製品カタログを参照ください。
- ⑫ プール循環ポンプ周り系統で使用の際は残留塩素濃度が5ppm以下で使用してください。しかし、プール循環ポンプ周り系統では部分的に高い塩素濃度となる場合があるため使用箇所には十分注意が必要です。  
※ゴム継手内面ゴムにJW01を採用したものに限りません。

●ポンプ循環ポンプ系統図



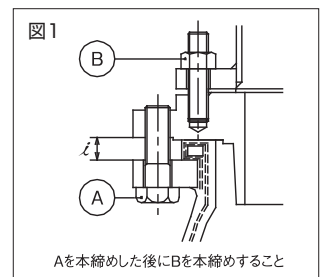
※上記フロー図は一例です。実際に使用においては上記内容を理解の上、計画、施工頂くようお願い致します。

- 保管上の注意事項
- 配管施工上の注意点
- 配管施工例

フレキシブルジョイント施工上の注意P64をご参照ください。

### 取付け方法及び注意点

- ① 本製品は、JIS 10K(KVH-N形は、JIS20K)フランジに取付けられるようになっています。相フランジに合わせて付属の取付ボルト等を異径フランジのネジ穴に対応させて使用してください。
- ② 異径フランジと接する相フランジ面に、突起や傷等がないことを確認してください。(表面粗さ:25S以上)  
※P61フレキシブルジョイント「取付け方法及び注意点」をご参照ください。
- ③ パイプサイレンサーの異径フランジと相フランジのボルト穴位置を異径フランジを回して合わせ、パッキンをはさんで取付ボルト、植込ボルト、ナットで仮締めしてください。(図1のB参照)(注:KVH-N形は、取付ボルト、植込ボルト、ナット、平座金で仮締めしてください。)
- ④ 異径フランジとゴム継手側のフランジを固定しているボルトは、仮締めになっています。(図1のA)  
相フランジ側へパイプサイレンサーを取付ける際、異径フランジが回せない場合は、このボルトを外れない程度に緩めてください。
- ⑤ 植込ボルトは、通常のボルトが挿入しにくい場所に使用します。
- ⑥ ポンプ、バルブによっては取付ボルトが差し込めず、パイプサイレンサーが直接取付けられない場合があります。その場合は短管を使用してください。



- 点検要領・耐用年数の目安

フレキシブルジョイント施工上の注意P64をご参照ください。